

「静岡県地震対策オペレーション2018」に参加

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、1月17日（水）、静岡県庁（静岡市）及び沼津市、下田市、藤枝市、磐田市で実施された「静岡県地震対策オペレーション2018」に参加した。

この訓練は、静岡県が主催して毎年阪神・淡路大震災の発生日に合わせて実施しており、大規模地震が発生した場合の県、市町、自衛隊、消防及び警察等の関係各機関の業務調整・情報共有等に関する対応要領を図上訓練方式で演練し、県が作成中の対策計画の実効性を検証するとともに、各機関との一層の連携強化を図るものである。

静岡地本からは、県庁並びに東部（沼津市）、賀茂（下田市）、中部（藤枝市）、西部（磐田市）の各方面本部に連絡要員として隊員8人を派遣したほか、陸上自衛隊からは東部方面総監部（東京都練馬区）、板妻駐屯地第34普通科連隊（御殿場市）、海上自衛隊からは横須賀地方総監部（神奈川県横須賀市）の要員がそれぞれ参加した。

訓練は、大規模地震発生後の県庁及び各方面本部における対策本部の立ち上げから自衛隊への災害派遣要請、救助拠点の開設、救援物資の確保と輸送等の各状況における対応要領を演練した。

本訓練に県庁連絡要員として参加した静岡地本国民保護・災害対策連絡調整係の秋山乾之郎事務官は「このような形の図上訓練への参加は初めてで緊張したが、いつ発生するかわからない大規模地震に迅速かつ的確に対処するためには、このような訓練を地道に積み重ねていくことが大切であると感じた」と語った。

静岡地本は、今後もこのような訓練に積極的に参加し、大規模地震を始めとする各種自然災害への対処能力を更に向上させていく。



状況付与の調整内容を確認する地本隊員（左）



関係各機関と対応要領を打ち合わせ

「熱海市自衛隊協力会創立50周年記念行事」に参加

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、1月28日（日）、ホテルニューアカオ（熱海市）で行われた「熱海市自衛隊協力会創立50周年記念行事」に参加した。

同会が創立された昭和43年当時は現在ほど自衛隊の認知度が高くなく、その活動が正しく理解されていない時代の中にあって、全国に先駆けての協力会の発足と支援態勢の確立は自衛隊にとっても大変心強い存在であった。

当日は式典に先立ち記念講演会が行われ、講師として元防衛大臣・久間章生氏が「これからの日本」と題して講話を行った。久間氏は防衛庁長官及び初代防衛大臣として奉職していた当時の世界情勢や今後の日本が進むべき道について熱く語るとともに、少子化・高学歴の時代において自衛隊の人材確保についても新しい考え方を示し、多くの聴講者の共感を呼んだ。

記念式典では、平素からの協力態勢に対し同協会より、熱海市を担任する陸上自衛隊第1戦車大隊（駒門駐屯地）と静岡地本に感謝状が贈呈された。定免地本部長は来賓祝辞において同会の長期にわたる支援と協力に対し謝意を述べるとともに、県内の募集や防災業務等を所掌する地本の使命を重く受けとめ、今後も関係諸団体との協力関係を一層密にして県民からの期待に応えられるよう任務の遂行に邁進することを述べた。

自衛隊を取り巻く安全保障環境は大きく変わりつつあり、自衛官の募集環境にとっても極めて厳しい状況ではあるが、静岡地本は今後も各関係団体との連携強化に努め、自衛隊に対する関心や理解を深める活動を積極的に実施して優秀な人材の確保に努めていく。

